

なかしゅんべつ

NAKASYUNBETU

2008
JUNE

6

VOL. 365



年金友の会・台湾春季旅行

年金友の会では毎年恒例の春季旅行が行われました。
今年、台湾旅行へ行ってきました。

経営改善プロジェクト取り組み事例紹介

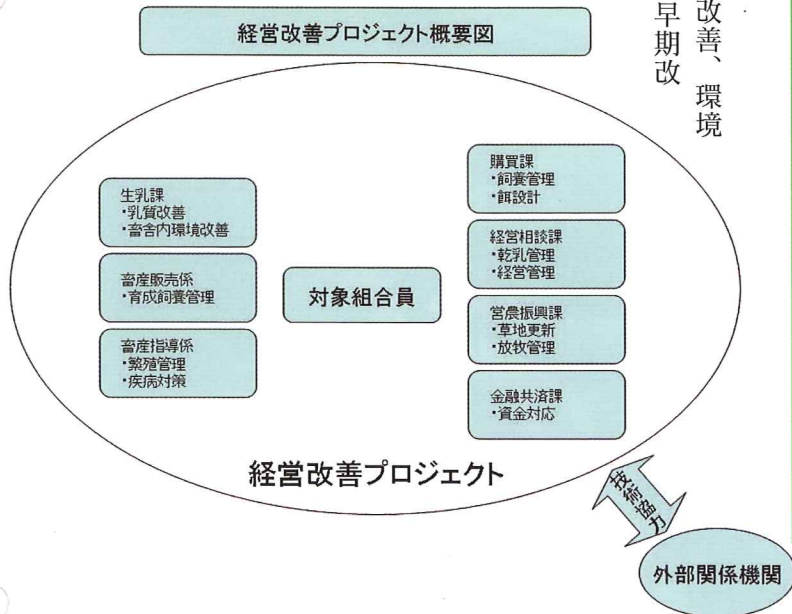
個々の改善から 全体の底上げを目指して

現在、農協内部で「経営改善プロジェクト」を立ち上げ取り組みを行っております。今回、誌上においてプロジェクト概要と取り組み事例の紹介をします。

プロジェクトの 設立経過

酪農経営が厳しい情勢下において、迅速な経営改善の必要性が求められています。そこで、各部署の専門性を生かし連携を図り、対象組合員の協力を得ながら経営改善に取り組むことで、組合員全体の経営状態の底上げを図る必要性が急務であった為、昨年七月、「経営改善プロジェクト」を組織しました。

飼養管理、乳質改善、環境改善などから、早期改善が必要な事項を絞り集中的に取り組みを行ってきており、また、平成二十年より新たに五戸対象を増やし、現在十五戸の農場で取り組みを行っております。



プロジェクト取り組み内容と担当部署

取り組み内容	担当部署		
繁殖管理	畜産指導係		
飼養管理	全部署		
餌設計	資材係		
餌の管理	全部署		
サイレージ調整	資材係	経営相談係	
乳質改善	生乳係		
乾乳管理	経営相談課		
牛舎内環境改善	経営相談課	資材係	生乳課
乳牛導入	経営相談係	畜産販売係	
施肥設計	資材係		
疾病対策	畜産指導係	全部署	
草地更新と放牧	営農振興課	資材係	経営相談課
牛作り	畜産販売係		

プロジェクト 体制について

プロジェクトの体制は次の図の通りとなっており、各課とも通常業務の延長線

として取り組み、プロジェクト会議として月一、二回の打合せを開き、共通意識を持った中で改善に取り組める組織体制をとっております。

プロジェクト取組み事例紹介

A農場

飼育頭数…経産四十六頭
育成九頭

草地面積…四七ha

改善事項…乾乳牛飼養管

理改善による、個体

乳量(立ち上がり)

の増加と分娩前後の

疾病の予防。

取組内容：A農場では、

取り組み前は、乾乳

牛は牛舎内で分けて

飼養していましたが、

前期、後期での群分

けは行っていないで

でした。

昨年十二月に、乾

乳前期牛を乾乳施設

で飼養し、後期牛(分

娩三週間前)は舎飼

(今後は後期牛も乾

乳施設で飼養予定)

を行う二群管理に取

り組みそれに伴い、

飼料給与方法も変更

(図一)しました。

これにより、立ち

上がり乳量の増加及

び周産期病の減少が

みられてきています。

組合員さんの話とし

ては、疾病は確実に

減少しており、飼養

管理変更についても

抵抗なくやっています。

とのことでした。

最後になりました

が、今回事例紹介し

ました農場以外にも

取り組みを行って

おり、今後、取り組み

経過について誌上を

通じて紹介してい

たいと考えています。

詳細については、

図1 飼料給与メニュー

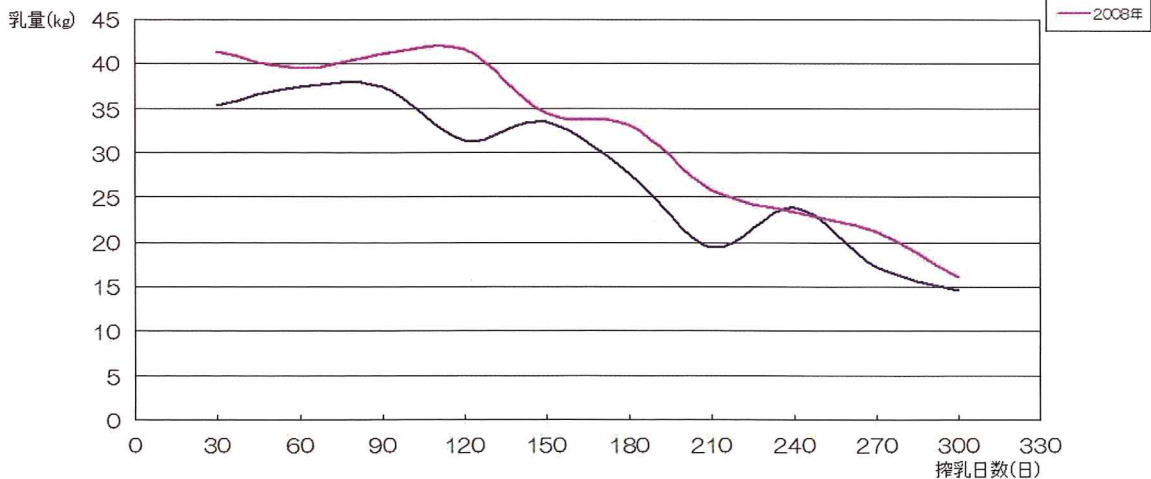
乾乳前期		乾乳後期	
ロール	飽食	ロール	飽食
乳配	2kg	乾乳用配合	4kg
タンカル	飽食		

分娩時の疾病状況(上段:取り組み前 下段:取り組み後)

月日	H19.4	H19.5	H19.6	H19.7	H19.8	H19.9	H19.10	H19.11	H19.12
分娩頭数	6	1	3	1	2	7	4	3	5
疾病頭数	1	0	3	0	2	1	0	0	2
月日	H20.1	H20.2	H20.3	H20.4	NOSAI 診断記録より				
分娩頭数	1	4	3	2	疾病:乳熱、産褥熱、ケトーシス、第四胃変位				
疾病頭数	0	1	1	0	胎盤停滞				

経営相談課まで気軽
にお問い合わせ下さ
い。

泌乳曲線(2産以上)



良い土、良い草づくりで健康な牛

● J A中春別草地現地視察講習会

五月二十七日 J A中春別青年部（部長・猿谷忠義）では、部員十四人参加のもと草地に係る現地視察講習を行いました。

今回の視察講習では、実際に草地に入り草地作りについて学びました。

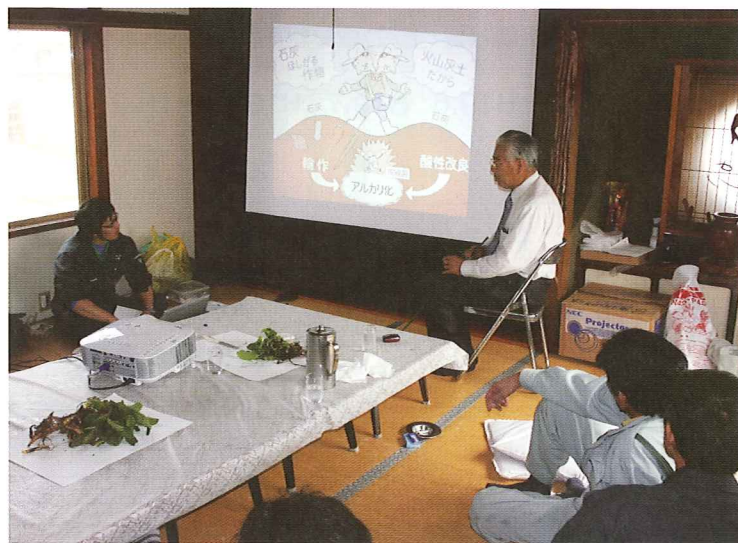
午前中は中春別地区、小

野栄一牧場、高橋真悟牧場の草地を視察させていただきました。小野牧場、高橋牧場と



もにルーサンを上手く活用しており今回の講習会で視察させていただきました。講師には 榎扶相・代表取締役社長・松浦元治氏を招き、草地の管理及び土作り

について実際に草地に穴を掘り、土や根を見ながら「どのようなにすれば良い土、良い草が作れるのか」解説して頂きました。雑草への対策、スラリーの上手な醗酵、散布についても触れられ、参加した部員からも様々な質問がだされておりました。



午後からの講習会ではスライドを使い、午前中のおさらいや様々な実例も紹介され、実際に視察し自分の眼で見て、

聞いてと内容の濃い実りある講習会になったのではないのでしょうか。

今後勉強会、視察研修を多く実施して、より多くの知識と技術を身につけるとともに各々が今後の経営に活かしていくことが最も重要だと思えます。

今回の現地視察勉強会に協力してくださった小野牧場、高橋牧場、講師の方々にはお忙しい中、現地視察講習会を受け入れていただき、大変ありがとうございました。

● 良質サイレージ調整講習会

五月二十七日に組合員、コントラ業者、農協職員を対象としたサイレージ講習会が開かれました。

根室農業改良普及センターの方を講師に招き、今まで普及センター、農協で調

調査結果と調整のポイント



査を行ったサイレージの調査結果と、収穫する上での調整のポイントなどの説明があり、講習会に出席した組合員さんは熱心に耳を傾けていました。現在、配合飼料の価格が高騰していますので、参加された組合員さんは、この講習会の内容を参考にされ、良質なサイレージを調整してもらいたいと思います。

草地、改良、繁殖を学びました



五月二十七日に行われました現地視察講習会に続き、JA中春別青年部（部長・猿谷忠義）では、五月二十九日～三十日に一泊二日の日程で豊頃町、本別町への視察研修を行いました。今回は、草地、改良、繁殖をテーマとして学びました。

一日目は、豊頃町にある山口良一牧場を視察し、お話を聞くとともに実際にサイレージを見せていただき、草づくりについて学びました。



山口牧場では、五年に一度のペースで草地更新を行っており、種

類はチモシーの単藩。デントコーンも作っておりデントコーン刈り取り後、すぐに草地へ更新するそうです。収穫については、地区内の農家四十戸で組織されるコントラを使っているそうです。山口さんは、すべての作業において効率性を追求しているそうで、施設建設の際にも効率性を考えているそうです。

山口牧場を視察後、同じく豊頃町にある（農）Jリードへ移動しました。まずは、事務所内において代表の井下英透さんから話を聞き、簡単に視察の説明を受けました。その後、施設の説明をしていただきながら見学しました。

二日目は、本別町の（有）佐藤牧場を視察しました。佐藤牧場では、雌雄判別精液を使い九割の受胎という結果をだしており、繁殖について話をうかがいました。受胎率がとても良かったということもあり、最初は試験的に

使ってみたそうです。育成の受胎率も良かったので、「これはいける」と思い本格的に使い始めたそうです。発情管理システムを導入し、管理しているそうです。最近あまり雌雄判別精液が手に入らないそうですが、今後もつかっていきたいとおっしゃっていました。今回の視察研修を通じ見聞きしたことを、今後に活かしていく事が重要であると思います。また今回の視察研修にご協力いただいた方々、大変ありがとうございました。





中春別農協青年部（部長・猿谷忠義）、中春別農協女性部（部長・青野美幸）主催により青年部、女性部、農協職員、地域の方々、総勢四十二人が参加され、地区内を流れる春別川流域のゴミ拾いを行いました。

別海町は酪農、漁業が基幹産業であり、自然の恵み



すみよい地域づくりは、ひとり一人のマナーから

を守り安心・安全な農水産物を生産できる環境づくりが求められることから、環境整備の一貫として地域を流れる春別川流域のゴミ拾いに取り組んでいます。

当日は、小雨が降る中、春別川に設けられた散策路沿いを約1kmに渡り川下、川上に別れゴミを拾いました。空き缶やペットボトルが多く、中には衣類もあり、明らかに人の手により捨てられたゴミであることが伺えました。やはり、すみよい地域づくりは、ひとり一人が最低限のマナーを身につける事により成しえる事でしょう。今一度、より多くの方々と考えてもらえればと思います。

しかし、参加した青年部、女性部の皆さんの声を聞くと、「毎年ゴミ拾いを行っていくうちに、ゴミが年々減っていると感じる」と皆さんおっしゃっており、最終的に集められたゴミの量も昨年より大幅に減少していました。今後も地域の環境を考え、様々な事業に取り組んでいければと考えています。

雑排水処理施設整備と中山間事業に理解を

去る五月七日に中春別サブ集落（集落長・伊藤一吉）の総会が行われました。議案第一号から第三号にかけて可決承認されました。

中春別サブ集落では、昨年と同様に雑排水処理施設整備に向けて、多くの協定者に取組んでいただけるよう取り進めて行きます。また、残り二カ年となった中山間事業において、協定者の皆様に理解していただけるような取り組みを実施し



て参ります。役員改選については、総会後の新役員の内選により決定されました。

平成二十年度サブ集落役員

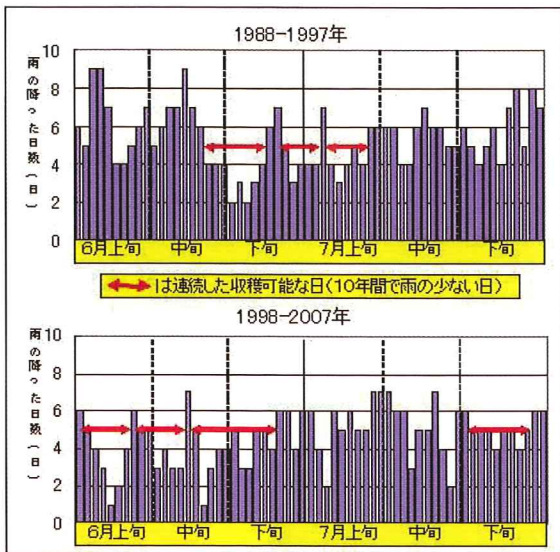
集落長	伊藤 一吉
副集落長	永野 正洋
会 計	山崎 浩二
監 事	上田 潤勝
幹 事	竹田 充
	北田 幸裕
	兼松 紀夫
	藤倉 貴司
	中西 孝修
	熊谷 孝浩
	永野 重雄
	小守 重雄

営農対策情報

根室農業改良普及センター

専門普及指導員 齋藤 太香詞

収穫時期による栄養価の違いと収穫調製のポイント



近年、収穫時期の晴れが続く日は、「早くなつてきている」との声から、ここ20年間の天候の推移を調べてみると、10年前(1988年～1997年)は、6月下旬から連続して晴れる日が多くありましたが、ここ10年(1998年～2007年)は、6月上旬頃から連続して晴れる日が多く、下旬にくずれれる傾向があります。(図1)

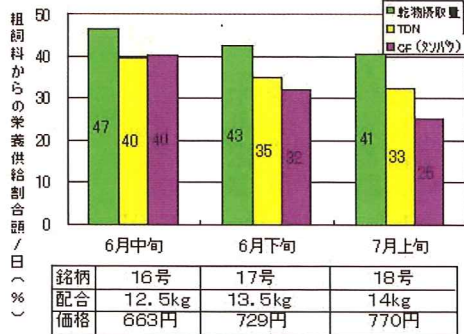
● 収穫時期と天候について

● 収穫時期と粗飼料からの栄養割合

収穫時期の違いで、乳量35kg設定の牛が1日に牧草からどれだけ栄養をとれるか示しました。(図2)

乾物摂取量では6月中旬に収穫した草は、繊維がやわらかく、牛が食べられる全体量の47%を牧草で満たせます。また、牛の1日に必要なTDNとタンパクの40%を牧草から取ることができます。収穫時期が7月上旬だと繊維が固くなって

食い込める量が減り、牧草からとれるTDNは6月中旬に比べ、3割程度まで下がります。タンパクは、25%まで減っています。これを配合飼料で

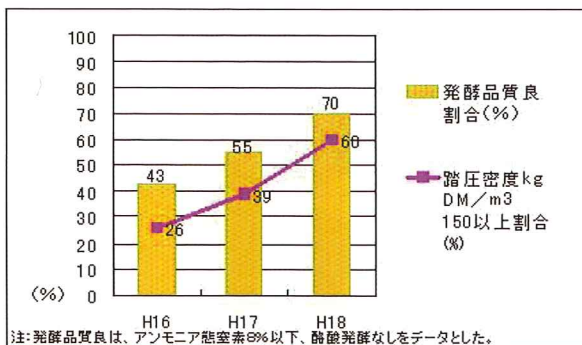


試算すると、6月中旬では、7月上旬よりもタンパクの低い銘柄にして、量は約1.5kg減らすことができます。

● 収穫調製時のポイント

発酵品質の良いものを作るには、やはり収穫調製の踏圧作業が1番のポイントになります。中春別地域で調査しているサイレージ発酵品質と踏圧密度との関係からも年々向上している事が分かります。(図3)

また、昨年度調査した中では、農場主から、「収穫



時はコントラクタに任せつきりにせず、自ら作業現場に顔を出し、コミュニケーションを図ることが、良いものを作る上で欠かせない」との意見もありました。特に収穫時、ギ酸を利用する場合は、草地の切り替わりで牧草の水分も変わる場合があるので、ギ酸が確実に効いているか確認する作業も重要となります。確認はPH試験紙と、にんにく搾り器等で簡単に出来ますので、普及センターまでご連絡下さい。



協農別春
年金友の会
春季旅行

中春別年金友の会（会長・渡邊栄頭）では、春季旅行として五月十日～十六日の日程で台湾四泊五日の旅を企画し、参加者十五人で実施しました。

麗しの島・台湾へ4泊5日



ありがとう

り休んでいただきました。

5月13日(2日目)

成田空港から三時間弱で到着する緑豊かな自然、伝統を誇る数々の史跡をのこす麗しの島台湾へ行ってきました。北海道は中々暖かくなりませんが、台北空港に降り立つと三〇度近い気温に迎えられました。

初日は、到着が夜だったこともあり、ホテルに入り参加した皆さんにはゆつく

台北市内観光で、台湾民主記念堂（中世記念堂）を見学。蒋介石總統を偲ぶ中国式大建築で、スケールの大きさに圧倒されました。昼食は、台湾名物「小龍包」（日本で言う餃子、肉まんに似ている）をいただきました





た。
午後から台湾新幹線で高雄まで行き、夕食に台湾海鮮料理をいただきました。食後、一晩中賑わう六合二路の夜市を散策し、多くの露店が立ち並ぶ中、参加者は新鮮で安い南国フルーツを購入し舌鼓。

5月14日(3日目)

高雄市観光で、蓮池潭(蓮の花の淡水湖、四重の仏塔「春秋閣」)を散策。

午後から飛行機で花蓮に入り、大理石工場見学。お土産に高価なネックレス、プレスレットを購入した参加者もおりました。太魯閣峡谷(大理石の峡谷、層雲峡の巨大版)を見学。

夕食に広東料理をいただきました。夜は、先住民アミ族のショーを堪能し、参加者も飛び入り参加し巧みなステップを披露していただきました。お見事!!

5月15日(4日目)

花蓮を飛行機で後にし、

台北市内にもどり昼食に台湾料理をいただきました。忠烈祠(国民革命、中国共産党の戦いで命を落とした軍人の英霊を祀る)を見学。軍服をきた兵士は瞬きもなく監視にあたり、行進も見事でした。

世界四大美術館の故宮博物院を見学。中国式宮殿を模した建物で、中国の歴史を伝える美術品、文物が七十万点あり全てを見るにはかなりの時間がかかること事。

最終日の夕食後、男性グループはカラオケへ、女性グループは添乗員と台湾デパートにショッピングと、それぞれ有意義な台湾最後の夜を過ごしました。

5月16日(4日目)

スイーツケース一杯のお土産を持ち、台湾ガイドの陳さんと涙のお別れをし帰国となりました。

四泊五日の台湾の旅は、天候にも恵まれ病気や怪我もなく、会長をはじめ参加者皆様の協力があり無事帰

国することができました。また、釧路から添乗いただいた東等さん、現地ガイド陳さんに大変お世話になりました。心から感謝いたします。今後健康に充分留意し、年金友の会の行事への参加お待ちしております。



只今、一生懸命に酪農を勉強中！



酪農^{あす}未来を^すひらく若者達

豊原地区 広沼 力也さん(26歳)

前回の荒瀬理さんのご紹介で今回は、豊原地区の広沼力也さんをご紹介します。力也さんは昭和五十七年六月十四日、父・英次さん、母・晴美さんの長男として生まれ豊原小学校、中春別中学校を卒業後、別海高校普通科へと進学されました。高校卒業後は、札幌大学法学部へ進み大学を卒業と同時に家業へ就かれました。小さい頃から家の仕事を

していたのですが、ただ何となくという感じで、漠然と手伝っていました。高校を卒業し大学へ進学、地元を離れて札幌での生活を過ごし、「自分は都会より地元での暮らしが合っている」と感じるようになっていったそうです。また、この頃より酪農について真剣に考えるようになり、「だんだんと「家業を継ぎたい」という思いが強くなっていったそうです。

力也さんは、音楽の編集などで普段活用しているということですが、地域の五十周年DVDの編集にも参加し、様々な場面で活用しています。今後は、趣味だけではなく上手く仕事にも活用していきたいと、今後の抱負も聞かせてくれました。

今回は力也さんのご紹介で、美原地区の長沼徹さんをご紹介します。

家業に就いた当初は、何となく手伝っていた時とは違い、専門的な知識がなく随分と苦勞したといえます。そんな分からない事だらけの中で、ご両親の指導の元、少しずつ仕事を身につけていきました。しかし、まだまだ勉強中の身ですので、いろいろな勉強会などに積極的に参加し、様々な事を学んで行きたいと話してくれました。パソコンが趣味



無事に子牛を産ませよう

● 女性部フレッシュユミセス部会・共済組合衛生勉強会

五月三十日、女性部・フレッシュユミセス部会では、分娩に関する講習会を共済組合大和田隣獣医を講師に迎え行いました。

講習会では、難産の見分け方・対処法や予防について、また分娩後の対応の説明な



どがあり、獣医師ならではの知識や経験を生かしての講習はたいへん勉強になり、皆さん熱心に聞き入っていました。

また、今回一緒に参加したサポート協議会の実習生



の方々も、普段見る事のできない分娩の様子や説明などを聞いて、さらに牛への関心が深まったことと思います。

今まで分娩について分かっていなかった方も、自信がなかった方も、再度認識してもらったことができたとても良い講習会となりました。

お手軽料理でおしゃべり交流会

五月二十六日、中標津町「しるべつ」とにて根室管内

フレッシュユミズ交流会が開催されました。



今年の交流会は、牛乳・乳製品を使ったお手軽料理作り。

根室管内のフレッシュユミズが『牛乳豆腐とひじきの煮物』『牛乳ご飯』『ミルク豚汁』『チーズ入りオムレツ』『ストリングチーズのシーザーサラダ』の五品を作りました。

● 根室管内
フレッシュユミズ交流会



五つのグループに別れ、同じメニューを作るとあって、皆さんそれぞれ違った出来上がりが見られました。そこは普段から料理を作っているだけあって、手際よく、どれもおいしくできていました。

出来上がった料理を食べながらの交流では、喋りたいし、食べたいし...と皆さん大忙しの様子でした。

自然を楽しみ、収穫の喜びを味わう

● 女性部・木の実部会
潮干狩り

五月二十三日肌寒い空模様の中、木の実部会では観光船で野付半島最先端のアラハマワンドへ渡り潮干狩りを行いました。

野付半島に囲まれた尾岱沼は波も穏やかで、潮干狩

りや磯遊びをするには絶好のポイント。

参加した七人の部会員は一時間と限られた時間の中で、バケツいっぱいのアサリを収穫し持ち帰りました。



焼肉を囲んで

親睦深めました 青年部 新人 歓迎会

去る五月二十二日、中春別農協青年部(部長・猿谷忠義)では、平成二十年度新入部員の歓迎会を中春別ヘルスパークにて行いました。



今年度は、三人の新入部員を迎えることとなりました。

当日は前日の大雨とほうって変わり天気にも恵まれ、新入部員を含む二十人の部員が参加し、昼食も兼ねた焼肉に皆さんした鼓をうちながら開催されました。

新入部員を迎えるにあたり、参加した部員ひとり一人が自己紹介し歓迎会へ移りました。

最初は、緊張した面持ちの新入部員でしたが、会が進むにつれ和やかなムードの中、話に花をさかせ、遊びの話から仕事の話などで盛り上がり、これから忙しくなる前のひと時、新入部員も諸先輩の方と親睦を深めることができたのではないのでしょうか。



4月 乳質乳価一覧表

(単位:円/kg)

		単価	算出基礎	支乳	払価	前年	差
乳脂肪分		720.746			29.01	26.44	2.57
無脂乳固形分		456.164			39.76	36.14	3.62
補給金		5.905			5.09	5.06	0.03
計画チーズ奨励金							
乳質単価	生菌数	ランク1	2	306,938,948.4kg	3.73	3.72	0.01
		ランク2	0	5,831,685.7kg			
		ランク3	-3	343,296.9kg			
	体細胞数	ランク1	2	268,311,755.5kg			
		ランク2	1	24,987,102.1kg			
		ランク1	-2	3,079,488.2kg			
特別対策		ランク2					
合計					77.59	71.36	6.23

4月分乳代支払単価

項目	単価(円)/kg %	
乳脂肪分①	29円01銭	
無脂乳固形分②	39円76銭	
補給金③	5円09銭	
チーズ奨励金④		
脂肪率	全道	4.03%
	農協	4.10%
無脂固形分率	全道	8.72%
	農協	8.65%
成分乳価①+②+③+④-⑤	全道	73円86銭
	農協	74円06銭
乳質乳価⑥	全道	3円73銭
	農協	3円75銭
乳代合計⑤+⑥	全道	77円59銭
	農協	77円81銭
⑤+⑥	差異	0円22銭



平成二十年四月三十日(水)

議案

- 一、 出資口数の減少について
- 二、 平成十九年度優良組合員の表彰について
- 三、 平成十九年度事業報告並びに平成二十年事業計画基本方針(案)について
- 四、 平成二十年度料金料率について
- 五、 平成二十年事業計画の設定について
- 六、 定款・規約・信用事業

規程等の一部変更について

- 七、 (規約附議書) 監事監査規程の総会付議について
 - 八、 平成二十年度役員と組合の取引基準の設定について
 - 九、 平成二十年度余裕金運用方針及び運用について
 - 十、 外部出資先の一部変更について
 - 十一、 外部出資の増口について
 - 十二、 平成二十年度担い手育成草地整備事業に係る計画について
 - 十三、 平成二十年度農年度財産造成に伴う資金の借入・貸付について
 - 十四、 第三十四回通常総会の開催日程について
 - 十五、 第三十四回通常総会の提出議案について
 - 十六、 第三十四回通常総会招集通知への記載事項について
 - 十七、 第三十四回通常総会の議決権行使にあたっての留意事項について
- 以下、原案通り承認。

報告事項

- 一、 平成十九年度(中)春別マシンセンターの決算報告並びに平成二十年事業計画について
- 二、 平成十九年度(有)ジェイエー・ワンプの決算報告並びに平成二十年事業計画について
- 三、 子会社の監査報告について
- 四、 平成十九年度決算監査の報告について
- 五、 平成二十年度農事組合長の就任状況について
- 六、 組合員加入について
- 七、 職員の退職について
- 八、 平成二十年度試験採用職員について

- 九、 永年勤続職員の表彰について
- 十、 平成十九年度三月末財務状況について
- 十一、 平成十九年度余裕金運用実績について
- 十二、 平成十九年度末貯金推進実績について
- 十三、 JAバンク基本方針の変更について
- 十四、 平成十九年度三月末購買事業実績について
- 十五、 平成十九年度三月末営農生産関連実績について
- 十六、 平成十九年度生乳生産個別実績について
- 十七、 平成十九年度農業所得税・消費税納付額について
- 十八、 平成十九年度経営移譲に係る褒章対象者について
- 十九、 平成十九年度乳質ペナルティー使途報告について
- 二十、 平成十九年度良質乳生産組合員表彰について
- 二十一、 暴風雪による被害状況について
- 二十二、 生乳補償互助会決算について
- 二十三、 共和育成牧場預託牛事故見舞金の支払いについて
- 二十四、 平成二十年夏期放牧について

広大な草地で新鮮な牧草を共和育成牧場入牧

五月二十六日、毎年恒例となつている共和育成牧場の夏期委託牛入牧が行われました。当日は、あいにくの雨模様でしたが、早朝より各農家から家畜車で集められた入牧牛が、共和牧場へ運び込まれ農協職員などにより耳標、ネック、番号を確

認した後、消毒剤を散布、月齢順に各牧区に振り分けられました。悪天候ともあり足場の悪い中、皆必死に牛を引いておりました。広大な牧草地で、太陽の光を体いっぱい浴び、新鮮な牧草をたくさん食べながらひと夏を過ごして、秋の下牧の時には、今よりも



一回りも二回りも大きく立派に成長して、組合員の皆さんの牛舎へと帰って行くことでしょう。

エゾヤマザクラ(蝦夷山桜)



身近な樹木に触れ、名前を知り
 自然ともっと仲良くなろう

山地に生える落葉広葉樹で、木の高さは20m、太さ50cm~80cmになります。北海道の代表的なサクラで、広く植栽されています。分布は北海道、本州中部以北、千島、朝鮮、サハリンです。エゾヤマザクラの由来は蝦夷のヤマザクラからきています。

材の利用目的よりも庭園や公園などの観賞木として植えられています。主な材の用途は家具材彫刻材に利用されています。また、サクラは薫製などに使う薫製用チップとして有名です。

花は美しく日本の国花です。美しい花を求め品種改良をかさねて、現在は園芸品種を含めると300種を超えます。

エゾヤマザクラは伊達市、稚内市、静内町の町木です。また、追分町ではの花に指定しています。「サクラ」を町木としたものを含めると19市町村になります。

ニューフロンティアファームの樹木図鑑より転載・抜粋



編集後記

▼ようやく咲いた桜の花も先日の突然の雨と風で散ってしまいました。五月も中旬を過ぎると外は心地よい爽やかな風が吹き、木々の若葉も緑に色づいてきました。少しずつではありませんが、夏へと季節が移り行くのを感じます。野生の鹿たちもエサを求めて道路へ飛び出して来ます。運転の際は十分に注意して下さい。

▼さて今月号では、青年部、女性部が中心となり、春別川のゴミ拾いがおこなわれました。散策路沿いを約一キロに渡りゴミを拾いました。ゴミ拾いを始めると、意外とゴミが落ちていたことに驚かされました。住みよい町づくりは私達ひとり一人の心がけが大切だと思います。

▼もうすぐ一番草の収穫作業が始まります。機械の点検、整備などで忙しい毎日を送られているかと思えます。毎年、作業中の事故が発生しておりますので十分に気をつけて作業して下さい。